



互に聲合 みんなが輝く 萬歳っ子



学校だより第5号
旭市立萬歳小学校
令和6年6月10日発行

運動会を実施

6月1日、運動会を実施しました。前日の雨の影響で午後からの開催となりましたが、青空の下、子どもたちの元気いっぱい活躍する姿が見られました。今年は、全学年で親子レースを実施し、子どもたちと保護者が力を合わせて競技を行い、楽しみました。

保護者の皆様には、競技への参加はもちろんのこと、終了後の後片付けにご協力いただき、ありがとうございました。

子どもたちには、運動会やその練習で培った体力、競技を通して味わったうれしさや悔しさ、団結する力を、今後の生活で生かし、さらに成長していくことを期待しています。



3・4年80m走



1・2年チェッコリたまいれ



5・6年100m走



3・4年親子の輪



1・2年50m走



5・6年親子で協力



PTA綱引き



旭音頭



3・4年スポーツ王



1・2年ころがしますよ



5・6年勝利への「き」棒



紅白リレー



応援合戦



南中ソーラン

統合小学校の校名について

本日、統合小学校の校名募集について、児童には紙媒体で、保護者の方には連絡通信アプリ（tetoru）にて、配付（配信）しました。

干潟地域の特性や歴史等を踏まえたり、未来を生きる子どもたちが過ごす学校にふさわしい校名を考えたりするなど、アイデアを出していただきたいと思ひます。

児童の提出に際しては、必ず一度保護者の方がご確認ください。

*（特に低学年の児童は）意図的にひらがなやカタカナを使っているのか、漢字を使いたいけれど習っていないのか、わからない場合があります。

⇒漢字を使いたい場合は同じ欄内に保護者の方が漢字表記を追記してください。

わたしたちの村のはじまり

本校の校舎3階の廊下には、「干潟八万石～わたしたちの村のはじまり～」が掲示されています。1・2年生は3階へ行く機会があまりないので、目にしたことがないかもしれません。下の文は、その掲示の中の文です。保護者の方はお子様とともに読んでいただき、校名案の参考にしていただくと幸いです。

樫の海とは

樫の海は旭市、匝瑳市、東庄町にまたがる東西12km、南北6kmという広い湖でした。広さは東京ドームが約1000個入るくらい大きなものでした。水を抜いて水田になるまでは、水田の水として使われたり、コイやフナなどをとる漁業も行われるなどまわりの村々の生活の役に立っていました。

湖から新田へ

今から350年前くらいのことです。このころは、江戸時代と呼ばれる時代の前半です。江戸時代の前半は人々の数が増えて、食料が足りなくなり、米を作る水田を増やすことが必要となりました。そこで、日本中で、新しい水田をつくることが行われました。このころ、わたしたちの旭市は下総の国と呼ばれていました。下総の国でも「樫の海」の水を海に流して、湖の底だったところを水田にする計画が立てられました。この計画は、「樫の海の干拓」と呼ばれました。杉山三右衛門（すぎやまさんえもん）、白井次郎右衛門（しらいじろうえもん）という人が干拓を計画して、幕府（この時代の政府）へ「樫の海」の干拓を願ひ出しましたが、許可はおりませんでした。樫の海を干拓すれば広い水田は手に入りますが、まわりの村々はこの「樫の海」の水を水田に利用していたので水不足により米がとれなくなってしまうという理由で許可されませんでした。

わたしたちの村のはじまり

この計画は、江戸時代の大工頭、辻内刑部左衛門（つじうちぎょうぶざえもん）が計画に加わることでようやく認められましたが資金不足などで一時中断しました。

その後の工事の再開には、江戸（今の東京）の有名な僧であった鉄牛（てつぎゅう）禅師が努力したといわれています。

寛文10年（1670）10月、工事は再開しました。1ヶ月の突貫工事で完成させたため、排水のとき、湖水が排水路である新川の外にあふれ出し、周辺の村や田畑がたくさん水につかってしまう被害が出ました。しかし、3月頃までには、湖水はもとの3割程まで減り、工事は終わりました。

こうして、広い新田が誕生し、新しく萬歳村、関戸村など18の村と3つの神社と5つの寺ができました。その一つが萬歳小学校のすぐ東にある東福寺です。